



# (社)全高P連会報

社団法人全国高等学校PTA連合会 (連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1(奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757  
発行人 高橋正夫 URL <http://www.zenkouren.org/> eメール [info@zenkouren.org](mailto:info@zenkouren.org)



新年度に向けて明るい期待をもちたいと願いましたが、世界の経済、日本の政局ともに混乱しております。その中で子どもたちをしつかり育む私たち保護者、PTA組織は結束して課題に取り組みむことが必要だと思いません。

平成二十年度はいろいろな問題が生じました。背景や動機にITが関わったり、ケータイの問題であったりしました。現在の高校生イ保有率は95%を超えています。ケータイを

## 平成20年度第2回総会・評議員会あいさつ 保護者は結束して課題に向き合いましょよう

全高P連会長 高橋正夫

合つて対応していく。国はようすを見て、支援だけしてほしいという姿勢を崩さないでおりました。学校教育でもネットリテラシーは指導していただきたいが、保護者も危険性をわきまえ、事故が起きないように勉強していくことが大切です。

昨年未から、高校生の就職内定取り消しが出てきました。三月卒業するまでに未就職者が一人もないように厚生労働大臣、文部科学大臣に要請しました。各都道府県P連も対応してくださっています。夢をもつ高校生たちを失望させないために、地元企業が尽力できる方針はないものか等、文部科学省が取り組み始めました。私は中教審・キャリア教育・職業教育

特別委員会に委員として参加しています。企業が若い新社員を教育することや、終身雇用制はよいとは言えないが、日本独自の産業構造もあるだろうなど、各界の代表者が論議し始めました。皆さんのいろいろな意見を聞きながら保護者代表として会に臨みます。さて、本日の講演は京都大学大学院准教授木原雅子先生に、子育て事業「親は子どもに何を伝えていくか。どう伝えていくか。」の調査研究報告をしていただきます。親子関係、高校生の人間関係を探究し今後のあり方に迫ります。また、明日は文部科学省教育課程企画室長神山弘氏から高等学校の新学習指導要領について、総務省消費者行政課課長補佐岡村信悟氏から「安心ネットづくり」促進プログラムについて、それぞれ説明をいただきます。この内容の要旨は会報にも記載して全会員にご理解いただけるようにします。

課題はいくつもありませんが、私たち各県連の代表者が一丸となつて難問に取り組み、それを各県で単位PTAにお伝えいたたく風通しのよい全高P連を目指したいと思います。

会長あいさつ	1頁	シリーズ視点	
シリーズ青春白書 全国からの便り一輝く姿がここにある		「科学技術立国日本の明日を担う高校生の姿を追う！」	6~7頁
徳島県立城ノ内中学校・徳島県立城ノ内高等学校		「親は子どもに何を伝えていくか。どう伝えていくか。」	8~9頁
鹿児島市立鹿児島商業高等学校	2頁	平成21年度事業計画	10頁
『鹿商』の伝統健在	3頁	各委員会報告	11頁
「高等学校新学習指導要領について」	4頁	平成21年度全高P連全国大会沖縄大会ご案内	12頁
『安心ネットづくり』促進プログラム	5頁		

徳島県立城ノ内中学校・徳島県立城ノ内高等学校

# 先輩は後輩の 手本

## 【併設型中高一貫教育】

本校は、昭和五十五年四月に徳島市内普通科総合選抜高校の一つとして開校し、平成十六年四月より、本県初の併設型中高一貫教育校としてスタートし、六年目を迎えています。中学は九クラス（一学年二クラス）、高校は十八クラス（一学年六クラス）、中高合わせて一〇五〇名の生徒が在籍しています。

校訓は、県の木「ヤマモモ」をデザインした校章の三枚の葉が表す「自立・協同・前進」であり、三つの実が表す知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成をめざしています。

中高生が互いに助け合ひ、切磋琢磨しながら勉学・スポーツ・芸術文化など幅広い分野で躍進を遂げており、県内有数の進学実績を誇ることも、常に新しい目標を掲げ、良き伝統と校風づくりに、生徒・PTA・教職員が一丸となり努力をしています。

## 【所在】

徳島市のほぼ中心に位置し、北は吉野川、東は新町川の清流に臨み、緑地に囲まれた閑静な住宅地域に、県内では最大級の校地を有しています。



校舎全景

## 【特色ある学校行事】

学校行事は、中高合同で実施する城ノ内祭、イギリスやオーストラリア



ヨット研修

への海外語学研修、カヌー・カヤック体験など。中学は四月実施の修学旅行での春スキー、広島への平和学習など。また高校では、シンガポール等への海外修学旅行、ヨット研修、ゴルフ研修など他の学校にはないさまざまな行事があります。

## 【PTAの活動】

PTA組織は中高それぞれに会長を置き、独自の活動も実施しています。基本は中高合同の活動となります。高校では、大学への研修旅行や各学年で進路説明会を開催するとともに、中高合同で学校の環境美化のためのカーデニング講習会、生



ガーデニング

徒と共に吉野川堤防清掃、ピラティス講習会など、多彩な活動を行っています。



堤防清掃

## 【創立三十周年】

本年度、高校が創立三十周年を迎えるに当たり、四つの重点目標を設定して取り組んでいます。一つは、高校の三十周年の記念事業です。同窓会（光風会）と連携し実施する秋の記念式典、講

演会、文化祭時の会員の作品などを展示するサロン・ド・城ノ内（本来は隔年開催）の開催などを予定しています。二つ目は、自転車通学時の交通マナーの向上です。並列通行や、雨天時の傘さし運転の禁止等を徹底したいと考えています。これには、生徒会と協力して生徒の希望を取り入れた本校オリジナルの雨具の導入を進めています。また、本校生が多く利用しているJR佐古駅駐輪場での整理整頓の指導も考えています。現在、本校や周辺校の自転車通学生が多い関係から、駐輪台数の容量不足が生じており、この是正を徳島市に提案しました。三つ目は、最近文科省でも指針が発表された携帯電話の利用についてです。県や学校の方針を守ることは当然のことながら、本校の実態を調査し、本校独自のルールづくりやマナーの指導を行っていきます。四つ目は、今年の全国高等学校PTA連合会の全国大会（沖縄）、及び、中・四国大会（愛媛）で、

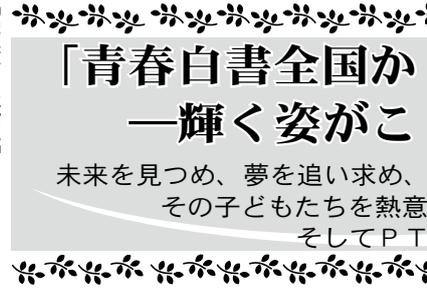
本校PTA活動の発表を行います。PTA役員の方だけではなく、多くの方に参加いただけるよう計画しています。



PTA研修旅行

最後に、本年度は、併設型中高一貫教育校の一期生として中学に入学してきた生徒たちが、高校三年生となり卒業する年に当たります。十倍の倍率の中、中学に入学してきた生徒たちである関係から、全県的にも注目されています。一期生は「先輩は先輩を手本とし、先輩は後輩の手本となるべく努力する」ことをモットーとして努力してきました。私たちはPTAとしてもこのような生徒たちを支えながら、また生徒たちに負けないよう、PTA活動のさらなる充実をめざしてまいります。

「私たちの便りにある」vol.6  
ひたすらに頑張る子どもたち。をもって導く先生たち、Aの仲間の姿をお伝えします。



【学校の概況】

穏やかにゆつたりと広がる錦江湾と雄大な桜島を一望する景勝の地に、薩摩男児九四〇余名が集う商業高校です。  
 明治二十七年に創立し、一一四年目を迎える本県商業教育の拠点校で、全国制覇を合言葉にしたスポーツの盛んな学



校舎から桜島を臨む

鹿児島市立鹿児島商業高等学校

『鹿商』の伝統健在

校です。  
 校訓「誠実」「勤労」の具現化を進め、「質実剛健にして礼節を重んじる」校風は、時代が変わっても先輩から後輩へと受け継がれ、『鹿商』の伝統は今なお健在です。



バレーボール部

【部活動について】

本校には、体育系19、文化系11の部活動があり、過去十年間のインターハイ出場実績は、相撲部八回、卓球部七回、バレー部四回、剣道部十年連続、バドミントン部十年連続、陸上部十年連続などです。また、硬式野球部は甲子園に春十二回、夏十三回出場し、ベスト4の実績がありま

す。  
 今年は全国大会に団体四部、個人六部の四十九人、九州大会に団体五部、個人六部の七十三人が出場し、特に、バレー部は五月の全九州総合選手権で優勝、六月の九州総体でベスト8、十月の全国総体で準優勝と大活躍しました。

【進路について】

就職は全体の約四割で、鍛え抜いた自信と誇りをもち、礼儀正しく元気で明るい生徒が多く、企業の評価も高いようです。  
 進学は、約六割で、日商簿記2級などの資格取得や部活動の成果を活かした進学が多く、難関とされる国公立大学や私立大学に進学し、活躍しています。

【先輩に学ぶ】

「先輩に学ぶ」をスローガンに、七月十一日、先輩方による本校独自の



起業家教育セミナー

「起業家教育セミナー」を実施しました。基調講演では本校を昭和三十年に卒業され、漬け物業界では全国的にも有名な株式会社「マルキュウ」の代表取締役会長で、関東同窓会相談役並びに薩摩大使でもある藤崎正人氏が「商業高校に学び」と題して講演されました。

「まず行動を起こさなければ何もできない。考えたときには行動を起こせ」と力説されました。  
 また先輩方を各学級に二人配置し、一人四十分行度の熱のこもったお話しと交流をしていただき、最後に志をもって頑張ってくださいと強調されました。生徒の印象については、「熱心に話を聞いてくれて、高校生の素直さが伝わってきた。」「明るく意欲的である。」と

のことでした。  
 またPTAからの参加もあり、終始熱気あるセミナーになりました。  
 『鹿商講演会』

卒業生で現在活躍されている先輩諸氏から講演を聞いたとき、今後の高校生活や社会生活において、人間いかに生きるべきかを考える契機とするため、毎年開催しています。

今年、鹿児島県経営者協会会長で中川運輸株式会社代表取締役社長の吉富信雄氏が「鹿商で学んだ集中力」と題して講演されました。吉富氏は本校を昭和三十年に卒業され、野球部主将として甲子園に出場し、選手宣誓をしたこと、授業中に集中力を養ったこと、慶応大学合格のために猛勉強したこと等、さまざま

まな経験談を話されました。鹿商生については、「人の話を聞くこととする姿勢が良い。」と印象深く語っておられました。  
 【下商交歓会】

明治十七年創立の下関商業高校と明治二十七年創立の本校は、共に市立の商業学科単独の高校で、共通した校風等も備えています。この両校が、お互いに交流を深め、更に向上を期するために姉妹校の盟約を結び、相互の交流交歓会を毎年開催しています。今日までの両校の伝統行事として、交互に会場を移しながら実施しています。

今年で第五十五回を数える交歓会は、十一月六・七日に本校で行われました。下商から伊藤薫校長をはじめ、総勢三十五名で来校され、一日目は生徒会交流を、二日目は県立鴨池球場で野球交流試合を行いました。全校生徒に加え、たくさんのPTAの保護者から熱い声援を送る中、緊迫した試合を展開し、夏の甲子園出場を共に誓い合い、充実した交歓会となりました。



鹿商講演会

# 高等学校新学習指導要領について

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教育課程企画室長 神山 弘

新しい学習指導要領は、平成二十五年度に高等学校に入学する生徒から学年進行で実施する。新しい学習指導要領の趣旨や内容等について、保護者の方々にも理解していただくことは大切なことと考える。

改訂案は、教育基本法、学校教育法の改正等や、平成二十年一月十七日の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」に基づくものである。

1. 今回の改訂の基本的な考え方  
一つは、「教育基本法改正等で明確になった教育理念を踏まえ、『生きる力』を育成する」ということである。二つは、「知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等のバランスを重視する」ことである。三つは、「道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成する」ことである。

2. 卒業単位数、必修科目、教育課程編成時の配慮事項等  
○卒業までに習得させる単位数は、現行どおり74単位以上である。○共通性と多様性のバランスを重視し、学習の基盤となる国語、数学、外国語に共通必修科目を設定するとともに、理科の科目履修の柔軟性を向上させる。○週当たりの授業時数(全日制)は標準である30単位時間を超えて授業を行うことができることを明確化した。○義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための学習機会を設けることを促進する。

3. 教育内容の主な改善事項  
○言語活動の充実。国語をはじめ各教科等で批評、論述、討論などの学習を充実させる。例えば、数学においても、「自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにしたり、議論したりすること。」と示している。○理数教育の充実。近年の新しい科学的知見に対応する観点から指導内容を刷新したり、統計に関する内容を数学Iで新たに必修化したりした。○伝統や文化に関する教育の充実。○道徳教育の充実。○体験活動の充実。○外国語教育の充実。高等学校で指導する標準的な単位数を一一〇語から一八〇語に増加した。また、英語に触れる機会を増やし、授業を実際のコミュニケーションの場とするため、授業は英語で指導することを基本とした。○職業に関する教科・科目の改善。職業人としての規範意識や倫理観、技術の進展や環

境、エネルギーへの配慮、地域産業を担う人材の育成、各種産業で求められる知識と技術、資質を育成する観点から科目の構成や内容を改善した。○その他にも、食育や環境教育、消費者に関する学習や情報教育を充実したり、部活動の意義や留意点を明記したりした。

4. 学習指導要領の実施スケジュール  
平成二十一年度中に周知徹底を図り、総則、総合的な学習の時間、特別活動は平成二十二年度から先行して実施する。中学校でも先行実施される数学及び理科は高等学校では平成二十四年度の入学学生から学年進行で実施する。数学及び理科以外の教科を含めた新しい学習指導要領全体は、教科書の編集・検定等を行った上で、平成二十五年度の入学学生から学年進行で実施する。

境、エネルギーへの配慮、地域産業を担う人材の育成、各種産業で求められる知識と技術、資質を育成する観点から科目の構成や内容を改善した。○その他にも、食育や環境教育、消費者に関する学習や情報教育を充実したり、部活動の意義や留意点を明記したりした。

4. 学習指導要領の実施スケジュール  
平成二十一年度中に周知徹底を図り、総則、総合的な学習の時間、特別活動は平成二十二年度から先行して実施する。中学校でも先行実施される数学及び理科は高等学校では平成二十四年度の入学学生から学年進行で実施する。数学及び理科以外の教科を含めた新しい学習指導要領全体は、教科書の編集・検定等を行った上で、平成二十五年度の入学学生から学年進行で実施する。

## 日本の高校生を元気にする 高校生新聞® 高校生スポーツ®



### 第11回「高校生新聞社賞」

学業・文化・スポーツ・生徒会・各種委員会、ボランティアの各部門で、高校3年間努力を重ね、特に飛躍した生徒に贈ります。2008年度は全国1778人に授与。受賞者を本紙2・3月号で発表しました。



### 高校生のための夢探し、自分探し 夢現塾 & 校内ステップアップ進学相談会

各界で活躍する講師の講演と、生徒が希望する大学・短大・専門学校の入試相談会を校内で無料開催。

首都圏で400の高校が利用



## SP 髯スクールパートナーズグループ 高校生新聞社

〒194-0022 東京都町田市森野 1-34-10 TEL.042-724-2750  
FAX.042-724-2710 <http://www.koukousei-sinbun.co.jp>

■1993年10月創刊 ■タブロイド判 平均28頁 ■毎月10日発行

# 「安心ネットづくり」促進プログラム

総務省総合通信基盤局消費者行政課 課長補佐 岡村 信悟

一年前にもこの場をお借りし、総務大臣から携帯電話事業者等に要請した結果、十八歳未満の利用者に対して携帯電話フィルタリングを原則適用する取り組みを進めることになった件を説明しました。高橋会長からは、この取り組みが唐突に出たことに困惑しており、今後は、情報をきちんと提供し、保護者側と連携をとって施策を展開すべきであるとのご意見を頂きました。ご指摘のとおりであり、その後一年あまり、高橋会長とは、さまざまな場面で、インターネットの利用環境整備について協力して検討してきました。本日は、その概略を報告します。

まず、携帯電話フィルタリングの導入促進についてです。現在提供されている携帯電話フィルタリングは、例えば、高校生が普段使い慣れているサイトまで一律に閲覧制限してしまうなど、青少年の利用実態に合わないという指摘がありました。これを踏まえ、携帯電話事業者がフィルタリングサービスの多様化を図るとともに、第三者機関のモバイルコンテンツ審査・運用監視機構（EMA）が設立され、青少年保護に配慮したサイトを認定し、フィルタリング対象から除外する仕組みを導入することになりました。これらの改善策を行ったため、十八歳未満の既存契約者に対する携帯電話フィルタリングの導入は当初の計画より遅れ、本年二月以降、順次実施されることになりました。

次に、「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」、いわゆる「青少年インターネット環境整備法」が議員立法により成立しました。この法律は、報道では「ネット規制法」という呼び方がされていましたが、実際には、立法の過程で、青少年の利用実態や表現の自由などに配慮すべきとの議論がなされ、過度な規制は導入せず、違法・有害情報に対する民間の自主的取組を一層促進し、国民のインターネットを使いこなす能力を強化することを基本とした内容に落ち着きました。本年四月一日に施行されます。

また、総務省は、インターネット上の違法・有害情報への包括的な対応策をまとめた「安心ネットづくり促進プログラム」を本年一月十六日に発表しましたが、このプログラムをはじめとする諸施策を実施する産学連携組織として、現在、「安心ネットづくり促進協議会」の設立準備が進んでいきます。この協議会は、インターネットの利用について一人一人が考え始める国民運動につながるような全国事業と地域事業を展開するとともに、個別のさまざまな課題について調査や議論を行うっていくことになりました（※）。

高橋会長をはじめ、全国高等学校PTA連合会の皆さまとは、今後も、密接に協力しながら、青少年の主体性を重んじ、賢くインターネットを使いこなしていける環境づくりに向けた取り組みを行っていきたいと思います。

※本年二月二十七日に、安心ネットづくり促進協議会は、一七〇を超える個人及び法人等の参画を得て発足しました。会長は、大阪大学総長の鷲田清一氏。高橋会長が副会長に就任されています。

二月十四日講演要旨

第16回AIU米国高校生国際交流プログラム

## 参加者募集

応募締切 2009年4月16日(必着)



10日間の国内留学

実施期間 2009年7月24日～8月5日  
募集人数18名(予定)、参加費用無料

AIU保険会社 主催 全国高等学校PTA連合会 後援

〈お問合せ先〉  
AIU高校生国際交流プログラム事務局  
Email: auihsd@aig.co.jp  
Tel: 03-5619-2635

MSIG 三井住友海上グループ

さあ来い! リスク。



三井住友海上火災保険株式会社  
〒104-8252  
東京都中央区新川 2-27-2  
www.ms-ins.com

安心・安全をひろげたい。  
マングローブ植林は、地球の未来に向けた保険です。



東京海上日動火災保険株式会社  
東京都千代田区丸の内1-2-1  
〒100-8050  
TEL:03-3212-6211(代表)

損保ジャパン

## あーんしん。

みんなのあーんしん。損保ジャパン。



Hedge Hog  
Name: Hedge Hog  
Address: AIG Building  
100-0002  
Age: Height: 11.5cm

株式会社 損害保険ジャパン  
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL:03(3349)3111  
ホームページアドレス http://www.sompo-japan.co.jp

# ジャパン・サイエンス・ エンジニアリング・チャレンジ

## (JSEC)

十二月六日、日本科学未来館（東京・お台場）で、JSEC2008の最終審査会が開かれた。六回目となる今年には全国75校・166研究の応募から論文審査で30プロジェクト（12個人、18チーム）が選ばれた。出場者（フアイナリスト）たちはそれぞれのブースで、ポスターやパソコン、実験道具などを使い、研究成果をプレゼンテーションした。

今年も、例年以上に研究のレベルが高く、フアイナリストたちの情熱

や、堂々とした受け答え、研究成果のまとめ方に審査委員たちは驚き、称賛を贈った。研究内容も実に多岐にわたり、新たな定理の発見、基礎科学や分野を横断した取り組み、画期的な新技術開発、社会に役立つシステムの考案など、彼らの独創的な発表は、来場者を大きくくうならせた。

午前の時間割審査と午後の自由審査、審査会議、交流会を経て、表彰式が行われ、四つのグラントアワード、審査委員奨励賞、アジレント・テ

クノロジー賞、アプライドマテリアルズジャパン賞、花王賞、JFESチール賞、朝日新聞社賞、アジレント・テクノロジー・スポンサーコ



# ズ視点 の 校生の姿を追う!

今日、科学技術立国日本の再生を目指し、さまざまな高校生たちが、「ものづくり」や科学のもつすばらさがある。そんな高校生の姿をご紹介します。彼らに寄せられるべき意識や姿勢をともに考えていきたい。

## 物理への誘い

大阪大学教授、日本物理学会副会長

大貫 惇 陸

「不思議だなあ、どうしてだろう」という素朴な疑問から始まり、背後に潜む法則にたどり着くのが物理です。日本物理学会は百年以上の歴史をもち、会員約二十万人の組織で、さまざまな活動を展開しています。その一つに、学会（年次大会）での高校生を対象にしたJr.セッション、国際物理オリンピック日本代表候補選考に向けた「物理チャレンジ」などがあります。この春の学会では、ノーベル物理学賞を受賞された小林・益川先生の市民科学講演もあります。子どもの頃から投網を

## 日本の未来を拓く「鍵」は 科学・技術の理解と増進!

東海大学名誉教授、日本化学会理事、  
日本女性科学者の会理事 佐々木 政子

ンプリメンタリー賞の計十六賞が決定。グラントアワード受賞者のうち三組は、二〇〇九年五月に米国ネバダ州リノで開催

予定のISEF（国際学生科学・技術フェア）に参加し、日本代表としてその研究成果をもって世界と戦う。

(agn.com 広告特集)  
JSEC2008 高校生科学技術 チャレンジに拠る

現下の世界的経済恐慌で、経済発展のみを優先させてきた社会構造は大きく方向転換を迫られています。私たちが生き、生活するために必要な天然資源が日本には十分ありません。この国を世界の中で、孤立させることなく繁栄させていくことにはたゞ一つ、人的資源の開発、科学技術立国の創造とその維持発展です。このことを励ますビッグニュース「四人の日本人、ノーベル賞受賞」が、昨年十月に飛び込んできました。受賞理由は、南部、小林、益川三氏は素粒子物理学への、下村氏は発見した発光物質の生命科学発展への貢献です。このニュースは知的好奇心と探求心が科学・

技術進展に繋がることを明示しました。JSECは、未来の科学者・技術者を育む場です。「何故だろう」を追求し、解明に挑戦する「出る杭」を伸ばす取り組みです。日本各地からの高校生、高等専門学校生の自由応募研究は、生物学、物理学、化学、地学、数学、環境科学、宇宙科学、生命科学、エンジニアリングなど多岐に亘っています。書類選考をパスした個人あるいはグループは、特設ブースで専門分野の審査員たちに研究成果を発表します。生徒たちの生き生きとした質疑応答は学会さながらで、発表回数を重ねることに理解を深め進化していく様子は感動ものです。生徒たち

の研究は、文部科学大臣賞を始めとする数多くの賞授与で称えられます。受賞者も賞を逃した者も、考えながら学び、努力によって実現させた研究を、研究過程を決して忘れることはないでしょう。科学・技術への憧れも一層高まることでしょう。研究達成の意義は計り知れないのです。受賞者のうち数名は世界の約五〇カ国・地域から一五〇〇名以上の高校生が参加する国際学生科学・技術フェア（ISEF: International Science and Engineering Fair）に出場し、世界各国の人々と出会い、交流を通して国際感覚も体得します。JSEC受賞者の現男女比は「...」です。この比が「...」になり、参加者が倍増し、さらに科学・技術の理解と増進が教育現場と日本社会に根付くことを心から願っています。

シリー

# 科学技術立国日本 明日を担う高

青少年の「理系離れ」「工学部離れ」が言われる。まな取り組みが行われている。その中で、多くのしさを意義を知り、自らの未来に向かって歩んでる大人たちの熱い期待をお伝えし、今、私たち保護

二年間かけてつくり、鳩小屋をつくるなど、私は動植物が好きで、高校一年生のときは将来文化人類学を学ぼうと思っていました。ところが高校二年生から物理学を学び、投げたボールの運動と地球をめぐる月の運行が同じであることを知り、それも一見単純に思える式で表現されることに驚き、物理がすっかり好きになってしまいました。物理の先生が夏休みには母校の大学で研究に励む、そんな人柄にも魅せられたのかも知れません。物理という学問は基礎科学中の基礎ですが、しっかりと基礎を学びとった物理の研究者は、生命、化学、工学、医・歯・薬学、情報・通信、金融などの分野へと進出し、活動の場を広げています。そういう意味で、物理は非常にダイナミックな学問だといえるでしょう。

## ピンチをチャンスと捕らえる技術者を！

前北海道旭川工業高等学校長 笹川政久

世界地図を見るたびに領土的に決して広くない小さな日本が、経済大国として発展を遂げ、先進国の仲間入りを果たし続けていることに日本人のすばらしさや誇りを感じています。技術力が国を榮え、技術者の惜しまな

い努力が国を支えているといえます。資源のない我が国では、「ものづくり」の充実に、実態として今日の繁栄はないといっても過言ではありません。今、世界は、百年に一度の不況の最中にあっ

## ジャパンマイコンカーラリー大会と『ものづくり』の魅力

ジャパンマイコンカーラリー実行委員会事務局長  
北海道札幌国際情報高等学校 情報技術科主任

向平 弘之

第十四回になるジャパンマイコンカーラリー（以下JMCRL）2009全国大会が、一月十一日に北海道札幌国際情報高等学校で開催されました。この大会は、文部科学省や全国高等学校PTA連合会など多くの後援のもと、全国工業高等学校長協会が高校生『ものづくり』大会の一貫として開催しています。この大会では、プラ

モデルなど手先を動かして物を作った経験のない最近の子どもたちが、車体フレームにモーターやセンサー等を取り付け、CPUに自作のプログラムを書き込み、マイコンカーという完全自走式ロボットカーを製作し、規定のコースでタイムレースを行います。指導にあたる先生方は、いつも工具の取り扱いや怪我等に緊張しながら子どもたちを支援しています。しかし、

入学当時何もできなかった子どもたちはいつしか『ものづくり』に夢中になり、マイコンカーが完成した時は小躍りしながら感動しています。マイコンカー製作での諸問題を友だちと協力し合い、試行錯誤しながら解決し、子どもたちは成長していきます。

JMCRLでは、『ものづくり』の感動から「心づくり、人づくり」を目指し、さまざまな経験をとおして「自ら学び、自ら考える」をテーマに『生きる力』の育成に心掛けています。JMCRL2008大会より高校生部門には上級者向けの『Advanced Classの部』の他に『Basic Classの部』という初心者部門が開設されました。この部門では「マイコンカー製作をとおしてものづくり初心者にその魅力を喚起し、技術者育成の裾野を広げる」ということを目的としています。



JMCRLでは、毎年一月に開催されるJMCRL全国大会には各地から選手が集い、控室では再会を喜び、さまざまな技術の交流やお互いの夢を語り合っています。そこでこのキーワードは、「環境」と「エコ」といえます。これまでの「利便性、合理性を重視したものづくり」から「環境や人に優しく温もり溢れるものづくり」への転換を図り、科学技術立国として世界をリードし続けることが求められます。そのため、学校、家庭、地域そして行政が一体となった工業教育を展開し、「国づくり」の基盤は「ものづくり」にあるとの認識をもち、「ものづくり」に夢やロマンを抱く子どもたちを育成していくことが必要であると考えています。



かった生徒は1.5倍から2.5倍ぐらいです。「先生や保護者以外の人から褒められる頻度」はほとんど影響していません。先生や保護者から褒められた経験がないということは、将来のやる気の高さにも、関係している可能性があると結果でした。

「やる気がない高校生の現状」です。1日のメール交換回数がゼロから19回までの人と比べて、100回以上となると2倍ぐらいやる気がない。「1日のインターネット使用時間」が、使用していない生徒に比べて、2時間以上使用している生徒のほうが2倍ぐらい割合が高い。そして、「現実の人間関係とネット上の人間関係」と、ネット上の人間関係、あるいは両方が好きという人のほうが、2.5倍ぐらいやる気のない生徒たちの割合はふえます。

今度はほかの精神状態との関係です。「学校をやめたいと思ったことがあるか」ですが、思ったことがない生徒に比べて、思ったことがある生徒のほうが5倍ぐらいです。そして、眠

れないことがない人に比べて、よくある人のほうが、これも6倍ぐらいやる気がない。そして、腹を立てていない人に比べて、腹を立てている生徒のほうが、7倍近くやる気のない割合がふえます。孤独感を感じていない人に比べて、孤独感を感じている人のほうが4倍ぐらいやる気が出ない。やる気が出ないという状況は、ほかの精神状態も不健康な状態になっていると考えられます。

さらに、「やる気が出ない高校生の周囲の人との人間関係」ですが、周囲の人との人間関係の様子をみてみますと、これは人間関係がうまくくれる人を1としますと、なかなかうまく人間関係がつかれない生徒たちのほうが2.5倍ぐらいやる気が出ない。ほかの人との会話が続かないことがよくある人のほうが3倍ぐらいやる気が出ない。次に、周囲の人との人間関係の深さを見てみますと、「心から信じられる友達がいる」と言った人に比べて、いないと言った人のほうが3倍ぐらいやる気が出ない。話を真剣に聞いてくれる先生がいると言った生徒に比べて、いないと言った生徒の

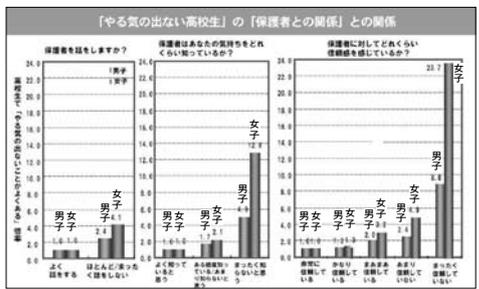
ほうが、これも3倍ぐらい。そして、保護者が真剣に話を聞いてくれる人に比べて、聞いてくれない場合のほうが、4倍ぐらいになります。そして「家族や先生以外の人が真剣に話を聞いてくれるか」、これは大きくは影響しておらず、2倍程度です。周囲の人たちとの深い人間関係をもっていないという状況が、子どもたちをかなり不安定な、不健康な精神状態にしているのが、原因か、結果かはわかりませんが、両者の間に強い関連が見られました。

次に、今回一番お示したいのが保護者との人間関係です。親と子どもたちがどんな人間関係をもっているのかです。先ほど話す頻度はふえていました。よく話をする生徒を1とすると、ほとんど、全く話をしない生徒は4倍ぐらい、やる気の出ない生徒の割合が増えます。今度は保護者が生徒の気持ち、子どもたちの気持ちなどをどれくらい知っているか。これは子どもたちから見た感覚ですけれども、よく知っていると思うと答えた生徒を1としますと、ある程度知っていると思うで2倍ぐらい、そして

全く知らないと思うという子どもたちになると1.3倍ぐらいやる気のない生徒の割合がふえます。最後に保護者に対してどれくらい信頼関係をもっているかですが、非常に信頼している生徒を1としますと、かなり信頼しているのはほぼ同じ。まあまあ信頼している2.3倍、余り信頼していない5倍、全く信頼していない生徒では2.4倍もやる気のない生徒の割合が増えます。この結果にはびっくりしま

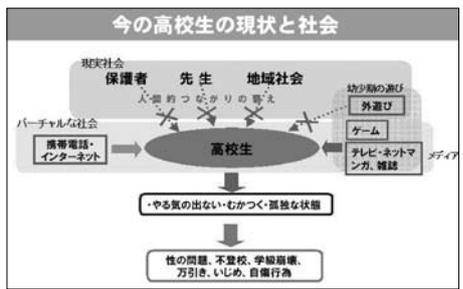
した。次に、今回一番お示したいのが保護者との人間関係です。親と子どもたちがどんな人間関係をもっているのかです。先ほど話す頻度はふえていました。よく話をする生徒を1とすると、ほとんど、全く話をしない生徒は4倍ぐらい、やる気の出ない生徒の割合が増えます。今度は保護者が生徒の気持ち、子どもたちの気持ちなどをどれくらい知っているか。これは子どもたちから見た感覚ですけれども、よく知っていると思うと答えた生徒を1としますと、ある程度知っていると思うで2倍ぐらい、そして

全く知らないと思うという子どもたちになると1.3倍ぐらいやる気のない生徒の割合がふえます。最後に保護者に対してどれくらい信頼関係をもっているかですが、非常に信頼している生徒を1としますと、かなり信頼しているのはほぼ同じ。まあまあ信頼している2.3倍、余り信頼していない5倍、全く信頼していない生徒では2.4倍もやる気のない生徒の割合が増えます。この結果にはびっくりしま



した。保護者を信頼しているかどうかということが子どもたちのやる気が出るかどうかということの背景にある可能性があるという結果でした。今回は保護者との信頼関係の質問しか入れていませんでしたので、も

しかししたら、保護者を含め、子どもたちを取巻く先生や周囲の大人など、その子のことを心から大切にしてくれる大人、そのような大人の存在が重要だということかもしれません。ここまでをまとめて、「今の高校生の現状」を図にしてみました。



少期の遊びは外遊びが減って、テレビゲームが増えて、テレビやネット、漫画、雑誌、いろんなメディアから、多量の情報を流され、いわゆる情報漬けの状況になっていきます。その状況は高校生になっても続きます。高校生になったら、今度はインターネットや特に携帯中毒のような状況になっていて、寝るときも携帯を手放さないという携帯

浸りきりのバーチャルな社会に暮らしていると考えられます。ただ、バーチャルな社会がすべていけないと言っている意味ではなく、ここでは弊害を中心に述べています。子どもたちは主にバーチャルな社会で過ごす時間が長いですが、現実社会の中で人間関係はど

うなっているかを説明します。保護者や先生、地域の大人との人間関係が希薄になると、子どもたちにさまざまな影響が出てきます。今回の調査結果から、地域の大人とのかかわりは希薄になって、先生や親のかかわりは、子ども時代はしかられる機会が減って、褒められることのほうが多くなり全体としては甘やかされている状況だと考えられます。その中でも特に、親との関係が重要だということが明らかにになりました。

日常生活や週末を一緒に過ごす機会は昔に比べ格段にふえているけれども、信頼関係は昔と同じぐらいです。例えば私は現在55歳ですが、昔を思うと、ほとんど親と話していません。記憶しています。それでも

（P. 10へ続く）

# 平成21年度事業計画

## I 事業方針

1 学校教育・家庭教育を振興させるための各組織・機関の充実発展

2 子どもの健全育成、安全、進路保障に関する調査研究、啓発活動

3 情報共有化に向けて広報活動の充実並びに配布のあり方検討

4 社会状況の変化に対応した本連合会の適正なあり方検討

5 日本PTA全国協議会、日本私立小学校中学校高等学校保護者連合会との連携

## II 事業内容

1 全国大会  
学校教育・家庭教育の振興、青少年の健全育成、高等学校PTAの質的向上及び情報の共有化を図るため、第59回全国高等学校PTA連合会大会沖縄大会を沖縄県宜野湾市を中心に、21年8月26日(水)～28日(金)の三日間にわたり、沖縄コンベンションセンターをメイン会場にして開催する。(詳細は12ページを参照)

2 地区大会(九地区)  
各地区高等学校PTA活動を推進するために、六月から七月にかけて地区ごとに高等学校PTA会員が一堂に会して、研究大会を開催する。

3 北海道地区高等学校PTA連合会大会  
6月26日(金)・27日(土) 帯広市

4 東北地区高等学校PTA連合会大会  
7月2日(木)・3日(金) 青森市

5 関東地区高等学校PTA連合会大会  
7月3日(金)・4日(土) 甲府市

6 東京地区高等学校PTA連合会大会  
7月5日(日) 代々木

7 北信越地区高等学校PTA連合会大会  
7月2日(木)・3日(金) 長野市

8 東海地区高等学校PTA連合会大会  
6月19日(金) 静岡市

9 近畿地区高等学校PTA連合会大会  
6月26日(金)・27日(土) 奈良市

・中国四国地区高等学校PTA連合会大会  
7月6日(月) 松山市

・九州地区高等学校PTA連合会大会  
6月18日(木)・19日(金) 熊本市

3 事業充実と啓発活動  
(1)文部科学省委託事業による調査研究及び研究会の開催  
21年度の全国共通の調査研究テーマは「ネット社会におけるPTAの役割」である。各地区では、20年度から取り組みの準備を進めており、地区大会及び全国大会沖縄大会の特別第3分科会で講演やシンポジウムが開催される。

(2)「子育て支援事業」の実施  
昨年度まで、「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実」事業を三年計画で行ってきたが、本年度はこれをいま一年延長して実施することにした。人間関係が希薄である指摘されて久しいが、その実態を科学的に明らかにする必要があるのである。

(3)財団法人日本宝くじ協会助成事業による

「薬物乱用防止パンフレット」の発行  
九九年にわたって継続して発行してきた薬物乱用防止パンフレットは、需要が大変多く、保護者・教職員から追加注文をされる。予防教育こそが麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止のための最良の手段であるとして、今後ともこの冊子を発行する。

(4)「株」リクルートとの共同による第四回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」の実施  
隔年で本全高P連とリクルート社は進路に関する全国調査を「高校生と保護者の進路に関する意識調査」として過去三回行ってきた。定点観測の面も含めている意識調査なので、進路観・職業観は継続して質問しているが、不況下における意識やバーチャル社会の進展に伴う意識など進路対策委員会が研究協議する。

(5)広報活動の充実  
本会のホームページの紹介を頻繁に行ったり、本会報の充実を図ったりして、本会の活動が会員に周知されるように努力する。

〔P. 9から続く〕

信頼関係をもっていたように思います。なぜ今、こんなに話しているのに信頼関係が築けないのでしょうか。親を含む大人との信頼関係の欠如が、子どもたちのやる気のなき、腹が立つ感、孤独感など不健康な精神状態につながり、それが最終的にはさまざまな問題行動と密接に関連しているのではないかと思われます。このような状況が今の子どもたちに起こっているというのが今回の調査結果からの報告でした。

子どもたちの現状というのは、本日、私が、先ほどお話ししましたように、本当に不健全な精神状態の中で、本来なら夢と希望にあふれていてほしい17歳の子どもたちが、なぜこんなやる気がないんだろうという悲惨な状況になっっています。でも、その中で、私は絶対に希望があると思っています。限られた経験からの言葉ですが、私たち大人が真剣にかかわると、私みたいな外部の人間、その学校の先生でもない、その子の親でもない人間のかかわりでも、子どもは確実に変わっていきます。で

すから、私たち大人の役割はとて大きいと思います。子どもの未来は、私たち大人にかかっていると、言っても過言ではありません。全国から皆様が集まっていますけれども、その一人一人の方がやれることを何か少しでも始めていただければと思います。今回の講演を講演で終わらせることなく、何か引き継いでいたいただきたい。私はそのために調査をしています。私がこの調査をいつもお引き受けしているのは、これを皆様方に伝えて、そしてそこから保護者の方が何らかの活動、何らかの実際の取り組みを始めて、最終的には子どもたちに還元していただければと願っているからです。そして、全国に子どもたちの笑顔がたくさん広がることを祈っています。

「木原雅子先生のご講演を本部事務局が要旨にしました。」



# 各委員会報告

## 賠償責任保証制度 運営委員会

委員長 伊藤 實

本年度はこれまでい

た、いただいた賠償責任保証制度のご案内資料について扱いにくい、増刷しにくい等のご意見が

ありました。当委員会では、現在九〇万人を越える加入者

まで成長した賠償責任保証制度を更にわかりやすくご理解頂ける様にと検討

いたしました。今回は従来のA3版とA4版が

連なったご案内資料からA4版裏表にコンパクト

化したしました。この四月からそれぞれの学校に

おいて保護者の方々への加入説明資料としてご利用

いたしました。幸いですが、新規加入者の増

大も重要ですが、事故原因を検証しますと自転車

事故数の増加、賠償額の高額化等制度全体の課題

もあります。この様な課題につきましては次年度以降

に引き続き検討していた

だきます。まだまだ完全な賠償責任保証制度ではありませぬので皆様方の忌憚のないご意見を引き続きお願いいたします。

## 健全育成委員会

委員長 豊岡 武士

健全育成委員会では、「子どもを取り巻く人間

関係の回復と社会環境の充実事業」の三カ年目として、「親は子どもに何

を伝えていくか。——IT社会における親子関係（大人の役割）について——全

国の高校生四五六三人、保護者三六九〇人のアン

ケート調査を実施し、木原雅子京都大学大学院准

教授による分析結果を二月十四日開催された会長

・事務局長会議で報告しました。また、全国五地

区（山形、栃木、石川、香川、福岡）で本テーマ

に沿ったシンポジウムを開催しそれぞれ有意義で

大きな成果があったと報告

告されました。

平成二十一年度については、もう一年継続し、

協力者委員に引き続き木原准教授をお願いして「青

少年が社会を健全に安全に生きる方向を保護者と

して模索する」をテーマに細部は今後詰めていく

こととし、シンポジウムは北海道、東京、東海、

近畿、中国四国の五地区で行う予定です。

一方、薬物乱用防止パンフレットも専門の先生方

のご協力を得て完成し、新年度の保護者に百十五万

部を配布する運びとなっております。最近、大学生や相

撲界まで大麻汚染が問題となる中、本パンフレット

が有効に活用され、高校生の薬物乱用がないよう

願っています。

## 進路対策委員会

委員長 荻莊 誠

来年度は、第四回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」を実施する予定です。そのため、

従来の「意識調査」の内容、質問項目、対象、時期、

成果の確認等について、

リクルート社の担当者を

交えて検討しました。

定点観測を大切に

して、社会の動きにも対応するようにバランスよく

調査していくことが確認されました。また、前回

行われたような、データ結果を踏まえた協議会・

研修会が大切であることも、来年度に引き継ぐこ

としました。

昨年末に明らかになった高校生の「内定取り消

し」は、厚生労働省、文部科学省に一人の未就職

者も生じさせないよう要請しましたが、各県P連

も自治体、ハローワークにはたらきかけるとも

に、地域の企業・事業者にも高校生採用を訴える

必要があることを確認しました。

就職のみならず進学にも影響を及ぼす厳しい不

況下ですが、保護者・PTAは高校生たちを励まし、共に道を開いていく

ことが大切です。

## 研修委員会

委員長 相川 順子

平成二十一年二月十三日、第3回研修委員を開

催いたしました。

案件は①第58回愛知大会を終了して②第59回沖

縄大会への取り組みにつ

いての進捗状況確認。③

第60回東京大会について、

特別第3分科会のテーマ

が「キャリア教育とPTA」と決定しました。

ひとつの事業を終える

ことで、必ずプラスの評価

とマイナスの評価が出さ

れます。全国大会の評価

は、次年度の大会へいかに

生かしていくかという視点

で議論がなされました。

次年度への引継ぎとし

ては、大会発表高校へ分

科会の内容を各研修委員

と、県P事務局の連携で

周知して取り組んでもら

うことと、研修委員が一

した。委員会では、シリーズ「青春白書」、そして

今年度からスタートした「視点」などさまざまな

情報をお伝えできる内容、またレイアウトにつ

いても検討を重ねてきました。PTA内部のみで

はなく外部からの声も取り入れたいと考え、また

全国から集まった委員の意見をより反映させるた

めに発行日についても検討し、これまで四月一日

発行のものを四月中旬発行といたします。次年度

に向けて、さらにより良い会報づくりを進めてい

けるように、しっかりと

した引き継ぎを行うよう

内容の確認をいたしました。

## 編集後記

今年度の事業を振り返り、さらに次年度に向けての方向性についてお伝え

いたします。またシリーズ「視点」は今話題の科

学に向け、研究者・技術者を目指す高校生の

姿をお伝えし、現在活躍中の方々からメッセージ

をいただきました。子どもたちと将来について

語り合う話題としていただければ幸いです。

調査広報委員一同

